

全国瞬時警報システム（J・アラート）が作動した際の対応について

平素は、本校教育にご理解とご協力を賜り、誠にありがとうございます。みだしの「全国瞬時警報システム（J・アラート）」につきましては、報道等ですでに周知されているところです。

万一の事態を想定し、児童の安全確保に向けて、基本的な対応を下記の通りとします。様々な場面が想定されますので、保護者の皆様におかれましても、児童の安全が確保できますよう、ご理解とご協力をよろしくお願いいたします。

記

基本的な対応は、裏面の兵庫県教育委員会が示している「対応例及び行動例」に沿って、次の要領で行うこととします。

しかしながら、登下校中のように、児童だけで屋外にいる場合は、J・アラートの情報を得られないことも想定されます。万一の場合、児童の安全確保のためには、通学路や公園の近くにお住まいの方から、子どもへの声かけや建物への避難を促していただくなど、様々な場面で、保護者や地域の皆様のご協力が必要となります。日頃から、J・アラートが作動した際の対応について、家族等で話し合いをしていただきますよう、よろしくお願いいたします。

1 登校前に、J・アラートが作動し、安全が確認できない状況の場合

○安全を確保して「自宅待機」

※安全が確認できれば、「緊急連絡メール」等で、その後の対応について連絡します。

2 在校中に、J・アラートが作動し、安全が確認できない状況の場合

○教職員が次のように避難誘導を行い、児童の安全を確保します。

※児童引き渡し等の対応については、「緊急連絡メール」等で連絡します。

①校舎内で活動中・・・・・・・・できるだけ窓から離れ、待機。（カーテンを閉める。）

②校舎外で活動中・・・・・・・・速やかに校舎内（建物）に避難し、待機。

③社会見学等の校外活動中・・・・引率教員が丈夫な建物（地下）へ避難誘導、建物等に避難できない場合は、物陰に身を隠すか、地面に伏せ、頭部を守る。

3 登下校中に、J・アラートが作動し、安全が確認できない状況の場合

○可能な限り複数で、各自、頑丈な建物へ避難するか、建物等に避難できない場合は物陰に身を隠すか、地面に伏せ、頭部を守り、安全を確保する。

4 下校後に、J・アラートが作動し、安全が確認できない状況の場合

○可能な限り複数で、各自、屋内ではできるだけ窓から離れ、屋外では頑丈な建物へ避難するか、建物等に避難できない場合は、物陰に身を隠すか、地面に伏せ、頭部を守り、安全を確保する。

《参考資料》 内閣官房 国民保護ポータルサイト

<http://www.kokuminhogo.go.jp/>

- ◆**留意事項** ○どんな場合においても、冷静に落ち着いて行動する。
○正しい情報をもとに、可能な限り複数で対応する。

裏面もご確認ください。

弾道ミサイル発射に係るJアラート等を通じた緊急情報発信時の対応例

兵庫県教育委員会

	緊急情報発信時	発令後の対応	安全の確認方法
児童生徒が在宅中	・ 自宅待機	・ 安全の確保が確認できるまで自宅待機 ・ 安全の確保が確認できれば登校	テレビ・ラジオ・インターネット等 を通して、情報収集に努め、安全の 確保等について確認 (確認事項の例) ・ ミサイルの飛翔方向、着弾場所 ・ ミサイルの着弾や落下物の有無 ・ 学校、通学路等の被害の有無 等
児童生徒が登下校中	・ 下記の行動例に基づき行動 ・ 公共交通機関乗車中等につい ては当該機関の指示による	・ 安全の確保が確認できるまで安全な場 所で待機 ・ 安全の確保が確認できれば登下校	
児童生徒が在校中	・ 下記の行動例を参考とした、 危機管理マニュアルに基づい た対応	・ 安全の確保が確認できるまで安全な場 所で待機 ・ 安全の確保が確認できれば授業を再開、 場合によっては下校	

<ミサイルが落下する可能性がある場合にとるべき行動例>

活動場所の別	とるべき行動の例
屋外にいる場合	・ 近くのできるだけ <u>建物の中</u> 、又は <u>地下</u> などに避難する。 ・ 近くに <u>適当な建物がない</u> 場合は、物陰に身を隠すか地面に伏せ、頭部を守る。
屋内にいる場合	・ できるだけ窓から離れ、できれば窓のない部屋へ移動する。